

技術者OB派遣、実践指導

未来を築く 地域発イノベーション



千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

千葉県を中心に中小企業の技術指導や経営支援を展開するテクノサポート。現状や今後について、

NPOテクノサポート 改正法が施行され、「経済活動の活性化を図る活動」を実施する法人が立ち上げられるようになった。2003年に「元気で技術力のあるシニアをリタイアさせるのはもったいない」と思

た。同年、特定非営利活動促進法（NPO法）の

代表を務める松本武理事長は70歳。出光石油化学で樹脂の研究などに携わった後、2003年に

定年を迎えた。当時、すでに高齢化と定年退職者の増加が問題となってい

た。同年、特定非営利活動促進法（NPO法）の

代表を務める松本武理事長は70歳。出光石油化学で樹脂の研究などに携わった後、2003年に

定年を迎えた。当時、すでに高齢化と定年退職者の増加が問題となってい

た。同年、特定非営利活動促進法（NPO法）の

代表を務める松本武理事長は70歳。出光石油化学で樹脂の研究などに携わった後、2003年に

定年を迎えた。当時、すでに高齢化と定年退職者の増加が問題となってい

千葉県市原市に本拠地を置き、中小企業を対象に技術指導をするNPOテクノサポート。定年を迎えて企業を退職した技術者出身のメンバーを企業に派遣して、設立10年超で支援件数は約1400件に上る。「実践に役立つ指導をし

てもらった」という支援を受けた企業からの評価もあり、企業OBに自己実現と社会貢献の場を提供して発展を続けてきたが、今後の展開には課題もある。

（山田 諒）

これまで約1400件の支援に

応じてきたNPOテクノサポート

▲.....

当初NPOテクノサポートに

参加したのは11人。全員が松本理事長も勤務

し、日ごろから付き合ひのあつた市原市周辺に拠点を置

いた。社会貢献という形で次代の技術力向上につ

技能向上を支援、若手育成

松本武理事長に聞いた。これまでをどう振り返りますか。

「専門分野の異なる11人で活動を始めて、現在では約60人に拡大してき

なりました。これはシニア層の増加と、中小企業の相談案件の課題細分化の双方

に対応してきた結果です。

設立10年超で、ようやく中小企業の悩み事

はおよそ70歳。この先を

は活動継続が大変だ。現在、メンバーの行動や支

援案件の情報をインター

ネット上で全メンバーと共有しているが、この仕

が、今後の事業継続には課題がある。まずメンバーの高齢化だ。現在平均年齢は70歳に近い。

「60歳近辺の企業OBの積極的な取り組みが重要で、周知活動を徹底させる必要がある」と松本理事長は認識している。

支援メニューの一層の拡大も事業の幅を広げ、活動を続ける意味で重要だ。現在は個別企業の技術支援が主な事業だった。だが、企業を取り巻く環境が厳しさを増す中、経営相談にも力を入れて経済活性化に取り組みたいと考

えていた。

若手技術者の育成も重要な事業と捉えている。ポリテクセンター千葉（千葉市稲毛区）からセミナー開催を受託し、4

月から年間30種類の講座を始めた。「若手の育成に関してもモノづくり経験のあるメンバーだから

こそ、教えられることがも豊富だ。

事例

特級技能士がアドバイス バイオマスプラで マネキン事業展開へ

ヤマトマネキン（東京都江東区、柴田兼吾社長、03・58366・0865）は、2012年度も

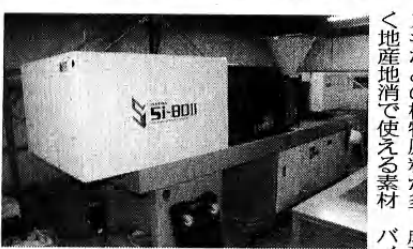
のづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金の対象として「ロボット軽量型を用いたディスプレイ器具の国内一貫生産体制の構築」が採択された際、NPOテクノサポートの協力を

受けて事業展開した。

ヤマトマネキンは、コメや木などを原料とするバイオマスプラスチックを用いたマネキンを開発し、生産体制の構築を進めている。バイオスマ

マネキンは、化石資源と温室効果ガスの削減に寄与でき、千葉県にはサンアスギなどの植物原料が多く地産地消で使える素材

技能士から機械の扱い方から樹脂（ゴム）に変る成形条件の特定までアドバイスを受けた。「数え



切れないほどの成形試験をしたが、思ったより安価でハイレベルな支援を受けられた。もっと早くから頼んでおけば良かった」と、上杉室長は満足する。今後は、射出成形機で自社製品の製造に取り組みたいとい